

# 上京

## 史蹟と文化

美を創る

上京の史蹟 ③

上京区民新能

春の茶会

町内よもやまばなし

思い出の西陣映画館 ②

行事予定

上京クイズ これはどこでしょう?

1992 VOL. 3



# 美を創る

千家十職（竹細工・柄杓師）

くるだ しょうげん

十三代 黒田 正玄

京都市上京区新町通一条上る一条殿町

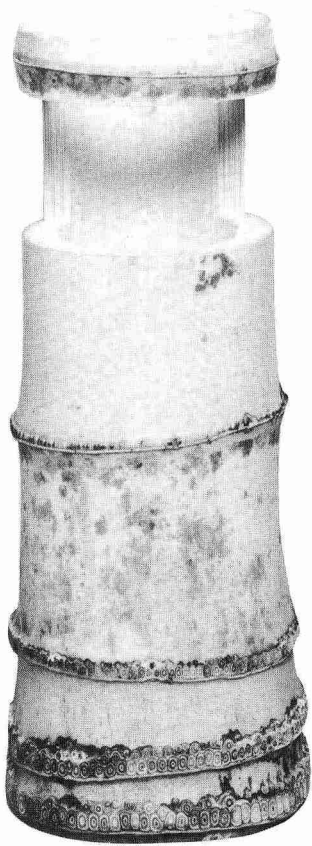
数ある伝統工芸の中で、「用の美」を極める茶道具。その中心的役割を果たしてきたのが「千家十職」である。

黒田家の祖、初代黒田正玄は天正六年（一五七八）、越前黒田郡に生まれ、丹波越前守に仕えたが、剃髪して大津に移り、竹細工を営んだ。後、京都に移った正玄は、小堀遠州の推挙により徳川三代将軍・家光の柄杓師として将軍家に任せ、その後、幕末に至るまで、代々その家柄を保ったのである。そして、当代まで、その歴史はまさに茶道具の盛衰と共にあったが、常に新しい工夫を凝らし、数多くの素晴らしい芸術を残してこられた。

十三代・黒田正玄さんは今年五十六歳。十二代の後嗣として生まれ、早稲田大学を卒業後、この道一筋に精進される。家業とはいえ、厳しい修行を経て、昭和四十一年に十三代を襲名された。

正玄さんは言う「たかが柄杓ひしやくと思われるでしょうが、柄えが剥はがれず、水が漏れず、しかも、水切れのよい柄杓を作るのは容易ではありません。それに、流派りゅうは、炉、風炉、釜の違ちがいによって種類は百二十種にも及ぶのです。他の茶道具にも言えることですが、用もちさえ足せば良いと言うものではないのです」。

柄杓のほかに茶入・茶杓・香合・水指・蓋置・花入、等々、数多くの茶器を手掛けておられる。それだけに、材料の竹の吟味に心を碎かれる。



十月中旬から十一月頃に伐きられた竹は、水分を抜いた後、一月末から二月に掛けて畳一畳程の火鉢あぶらで脂抜きが行われ、一ヶ月半程天日に干す。その後、四、五年、風通しのよい日陰で乾燥させ、ようやく製品に用いると言う。こうした非能率的な作業と材料への「こだわり」が、竹を美しく半永久的に保つことになる。しかし、最近では郊外の宅地造成が進み、竹林が次第に姿を消し、良い竹が段々少なくなってきた。

歴史の中に面々と続く家系、正玄さんは語る「黒田正玄は、私個人のものではないのです。今や、預っている、と言う心境です」。その家系を支え、次代へと申し送って行くことの厳しさが滲み出ている。

じっと竹を吟味する正玄さんの目が光った。



# 上京の史蹟

その二

## 上京の歴史的推移

近世

織田信長が天正十年（一五八二）六月二日、明智光秀の謀反によって本能寺にその波乱に満ちた生涯を終え、代わりに豊臣秀吉が天下の実権を握るや、上京区の近世的な変貌が最初に西南地区に現れます。

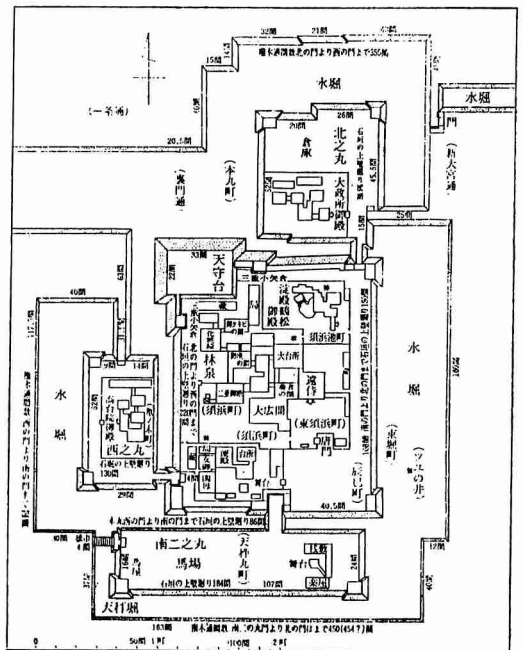
天下統一に成功し、閑白の地位を得た秀吉は、天正十四年（一五八六）二月、上京における最初の大プロジェクトともいえるべき「聚楽第」の建設に着手したのです。彼は、その地位に相応しい邸館を作る必要を感じ、その候補地として応仁の乱以来荒廃していた平安京の内裏跡である内野を選びました。当時この地区は、まったくの野原であったわけではなく、すでに一部地域には洛中の農家や町家が点在し町化が進みつつあったのですが、彼はこの地域を

含め市街化された二条までの一帯を纏

打ちしたのです。本当の規模についてはほとんど資料もなく、今日知る由もないのですが、おおむね東は大宮、西は千本、北は一条、南は二条、或いは丸太町であったようです。秀吉はこの建設には異常なまでに力を注いだらしく、建築途中に何度となく現場に足を運んでおります。また、このように検分のため上洛した秀吉のもとへ、各地から工事の祝言が寄せられました。工事のほうも諸大名が命じられ、大阪城築城以上の規模であるおよそ十万余の人夫によって着々と進められたようであります。このためか、四圍を取り巻く深さ五・四メートル、幅三十六メートル、全長千八百メートルに及ぶ堀も瞬く間に完成し、その年の末から、翌年早々には、徳川家を始めとする諸大名の邸宅も順次完成しました。また、当時既に秀吉と深い関係にあった千宗易（利休）も葎屋町に屋敷を与えられ

たのです。そして、着工から約一年後には金箔瓦に覆われたその偉容を京洛の地に現しました。この上京に燦然と聳え立つ絢爛たる「聚楽第」は、権威の象徴でもあった御所と僅かに一キロメートル余り西に位置し、しかも、その周辺には武家屋敷、公家屋敷、町家などが整然と区画され、あたかも城下町的な景観を呈していたのであります。もちろん秀吉は、この地理的な距離を計算にいれ、政治面に関しても充分に考慮したうえのことであったでしょう。しかし、彼がこの聚楽第に正式に移ったのは、九州征伐などの関係から天正十五年九月十三日でありました。

この年の十月一日、秀吉は北野の森に於いて空前絶後ともいえるべき大茶会を催しております。北野神社は中世以来、文芸と深い関わりを持ち、足利将軍もまた社参の折りには田楽や猿楽などの興行をしばしば催しておりました。



「聚楽第」復元地図

特に足利義持は応永十年（一四一三）七月十日より七日間に亘り勸進猿楽を催したという記録が残っております。こうした由緒ある北野の森で、秀吉が大茶会を催そうと考えたのは、けだし当然であったでしょうし、この決心をしたのは恐らく九州征伐の陣中であつたと思われまふ。九州より凱旋した彼は、凱旋早々の七月二十八日に京都の街の各所の高札場に触れを出し、この催しを伝えております。

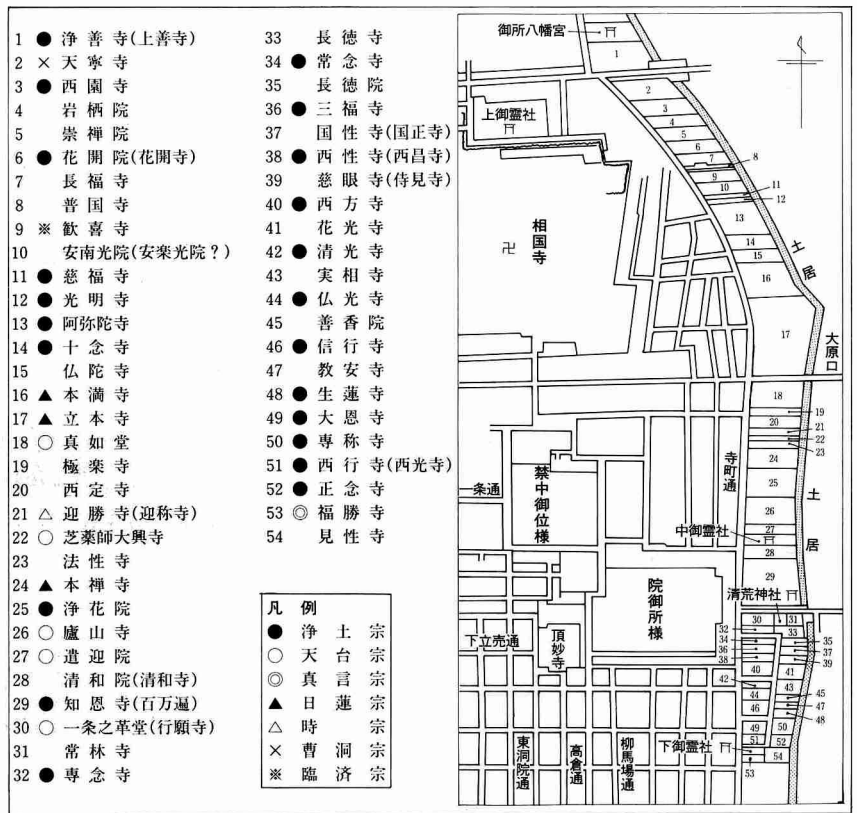
この触書によりますと、彼は一般民衆にまでこの大茶会への参加を呼び掛けております。この事は、茶の湯というものが貴族や武家、或いは特定の数寄者の楽しみではないという、秀吉の





秀吉は、すでに天下を統一した時点からこの問題に取組み、綿密な計画のもとに工事を進行させております。彼はかつての平安京をイメージしながらも、只単に形式主義にとらわれることなく、自身の政権に相応しい形で、なおかつ、京都の現実的な地形並びに治水対策に

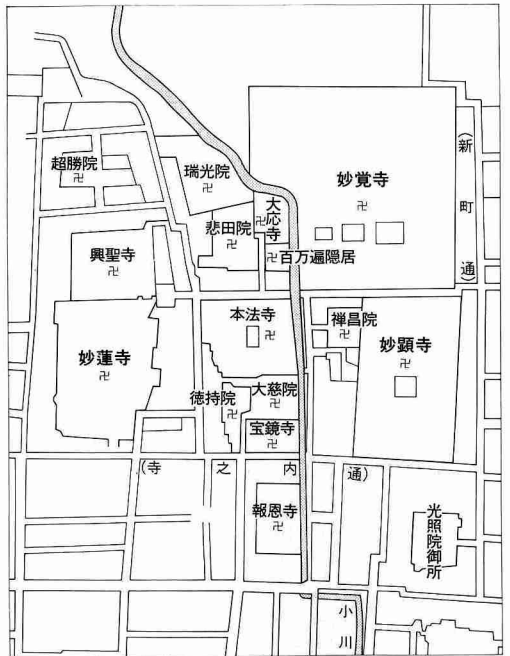
即応させながら実現したのであります。これによって京都の街は一個の巨大な城塞都市に変貌するのです。しかしながら、上京を一瞬のうちに変貌させた都市改造も、ただ単に聚楽第と御所を中心とした地域のみ限定されたわけではありませんでした。



上京区内の「寺町」寺院配置図 寛永14年「洛中絵図」(宮内庁書陵部蔵)による

お土居の造成に從つて、これに前後して行われた市街地改造で、東側にはお土居に並行して「寺町」を、北部には「寺之内」という二大寺院街が形成されます。これらはいずれの場合も、各寺院の強制移転よつて計画的に実行されたものであります。この寺院街の造成は、以後、近世を通じて上京に新たな景観を位置付けるものとなりました。また、市街地についても、四条室町を中心として京都の街を四分割し、それぞれに特徴を持たせると共に、平安京の基盤の目の街並を短冊型の街並に改め、道路幅も縮小して、ほぼ現在の道幅に変更したのであります。

このようにして改造された京都の街は、平安京の優雅な姿をイメージしているものの、その実、聚楽第と御所を中心とした軍事的意味を持つ城下町の形成であり、平安京における左右対照的なものではなくなりました。しかしながら、これが近世以降の各地における城下町形成の模範的原形となり、以後、近世末にいたるまで、この形式が全国各地に受け継がれたのです。この大改造の命令を下した直後の天正十九年二月二十八日、既に秀吉との間に亀裂が生じていた千利休に切腹の沙汰が下されております。事件の原因については諸説があり、さまざまではあります。その根絶を計ったのではないかと考えられます。その日、葎屋町の利休屋敷は早朝より上杉勝率率いる三千の軍兵に警護され、尼子三郎左衛門、安威撰津守、薛







利休像 長谷川等伯 筆

田淡路守の三名が検使として赴きました。利休はこの三名を不審菴に迎え入れ、共に茶を喫した後、蒔田淡路守の介錯で自刃し果てたと伝えられます。時に利休七十一歳。まさに天下一の茶頭の最後でありました。

この年の十二月二十七日、秀吉は養子である甥の羽柴秀次に関白職を譲り、自らは太閤と称し、予てからの夢であった大陸制覇を実現すべく準備に取り掛かります。

翌天正二十年、秀次は関白と同時に左大臣となり聚楽第に移り住みますが、政治の実権は与えられず太閤の意のままに動く傀儡にすぎなかったのです。しかし、こうした不満がお互いの不一致を招き、次第に相反するようになって行きます。しかも、彼が関白職を継

承した翌年、秀吉に実子の秀頼が誕生したことにより、事態は益々複雑化し、その結果として自暴自棄に陥った秀次は「殺生関白」という言葉が示す通り、粗暴な振る舞いが目立つようになりました。

目に余る秀次の乱行に業を煮やした秀吉は、文禄四年（一五九五）七月三日、突如、聚楽第にあった関白秀次に対し、関白並びに左大臣職の剥奪を伝え、即刻、高野山に追放し、自刃の沙汰を下したのです。そして時を移さず、七月二十八日には聚楽第の破却を命じ、その後、秀次の子女・妻妾や彼の与党すべてに対する処断を行っております。この事は、利休事件と同様、秀吉が集権的な政治体制を貫くためには欠くことの出来なかつた行動であつたと考え

られます。かくして、上京に燦然と輝いた「聚楽第」はいとも簡単に、しかも、完全に取り壊され、その故地は、暫くのあいだ草生い茂る空き地として放置されたのです。

この事件以後、見逃すことのできないのは、徳川家康の勢力が京都に浸透したことでしょう。彼は、事件が発生するや直に上洛し、秀頼への忠誠を誓うと共に太閤権力の下で諸大名の筆頭として第一人者の地位を確保したので

す。一方、十六世紀後半、桃山文化の台頭にもなつて「小袖」という単純形式の衣装が流行いたしました。この衣装

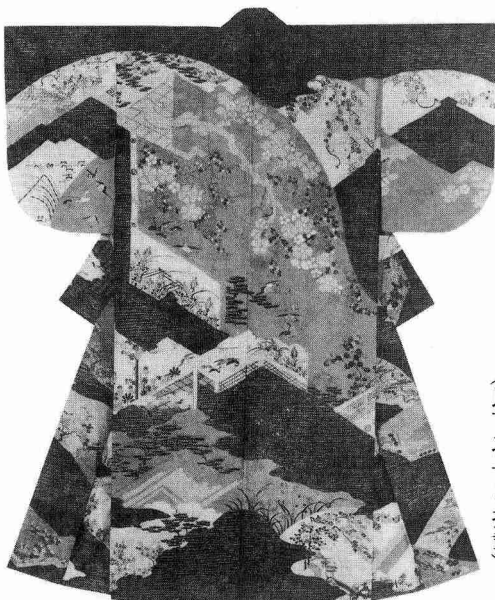
は、それまでの形による身分の隔たりを狭め、素材や意匠の差が身分差を識別する唯一の要素であつたことから、大流行をしたのであります。特に、当時海外からもたらされた製織技術や染色技法によって飛躍的に発展し、綿の伝来と相俟つて

服飾文化をより一層充実させ、新鮮な意匠や色彩が日常生活に華やぎと潤いをもたらしたのです。これら服装品の供給源が西陣であつたことは言うまでもありません。

この当時、西陣機業は二十一町に及び、京都は言うに及ばず日本を代表する高級織物生産地としての地位を確立しておりました。

太閤秀吉が慶長三年（一五九八）八月十八日、愛息・秀頼の行く末のみを心に抱き伏見城の一室で六十二年の波乱に満ちた生涯を閉じるや、さしも強大な豊臣政権も瓦解の一途を辿り、やがて徳川の天下が訪れます。

（以下次号に掲載）



桃山末期の小袖（鐘紡株式会社蔵）



幽玄の世界へ誘う……

# 上京区民薪能



二十八回目を迎えた「上京区民薪能」は九月二十一日に白峯神宮の特設舞台で行われました。この催しは上京区内に居住される多くの能楽関係者の御協力によって毎年開かれているものです。

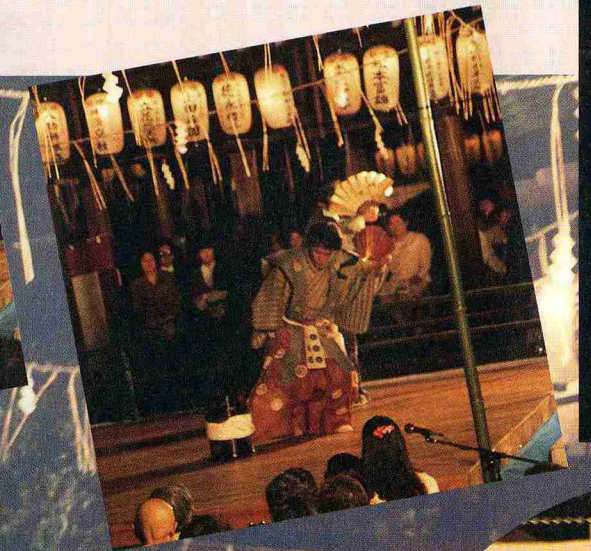
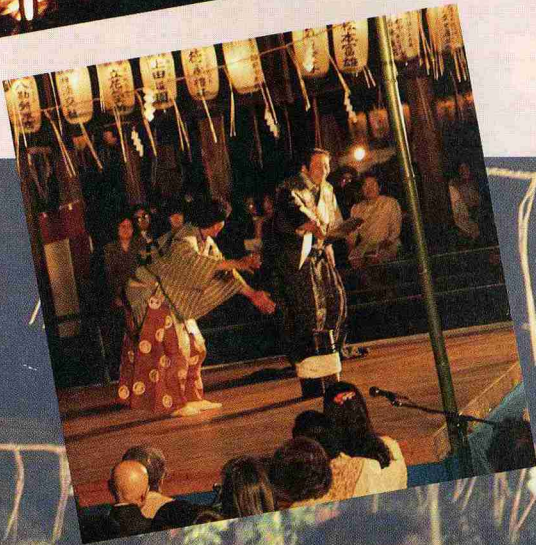
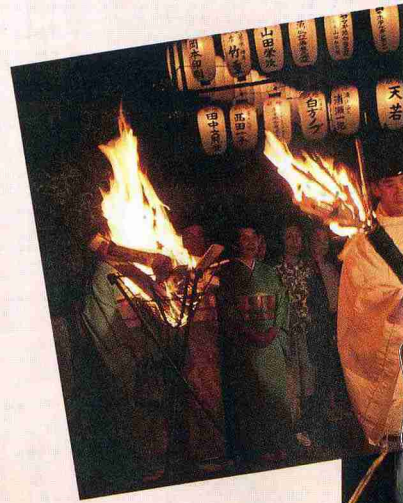
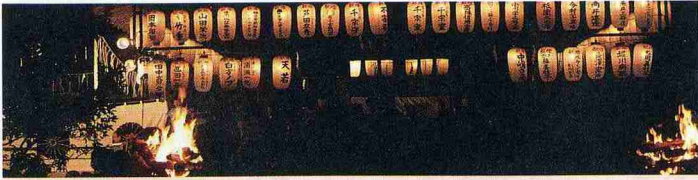
秋晴れの夕方四時からは、第一部として上京区民による舞囃子、仕舞、琴の演奏があり、夕日の沈んだ午後六時、火入式を行い、薪に点火され、第二部に移ります。

この薪能は能楽だけでなく、広く日本の古典芸能を鑑賞していただくという趣旨から、まず雅楽に集う会による舞楽「納曾利」が華麗に舞われ、観世流の河村禎二師による舞囃子「玄象」につづき、観世・金剛流の先生方による仕舞八番や、宮城会による琴「秋の曲」の演奏がありました。大蔵流狂言「千鳥」は茂山千五郎師親子によって演じられ、最後は季節にふさわしい観世流能「紅葉狩」が河村晴夫師らによって華やかにしめくられました。

会場を埋めつくした六百八十人の観衆は上京区在住の人間国宝総出の舞台上に幽玄の世界を楽しみました。



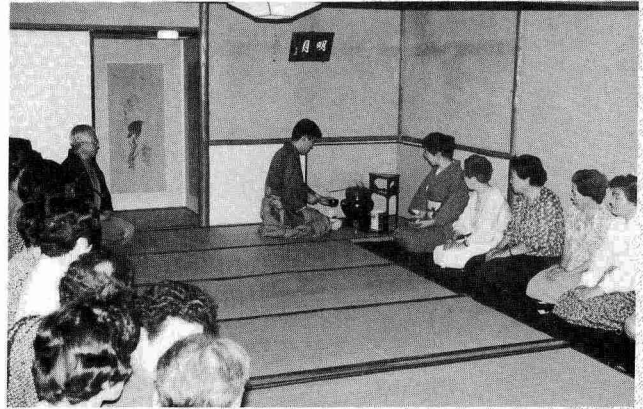






# 春の区民茶会

恒例の春の上京区民茶会は、北野天満宮に会場を移し、表千家家元の懸釜によって、六月七日に行われました。このお茶会は上京区の文化発展と地域振興を目的として、茶の湯を育んできた地元の人々にお茶を楽しんでいただくとうと、毎年春秋に開かれているものです。この日は本席を茶室「明月舎」、副席を社務所書院に設け、四百五十人の来客で賑わいました。



## 会 記 (明月舎席)

主 不審菴

寄付掛物 対水筆 青楓ニ鮎の絵

本席掛物 近衛予楽院筆一行 南無天

満大自在天神 七歳の書トアリ

前二 天目ニテ供茶

花入 如心齋所持写 唐銅

松ノ木スリ漆花台ニノセテ

花 利休梅

香合 鎌倉彫 梅紋結び文 二十ノ内

惺齋書付 紙金敷シキテ

惺齋好ツボツボ透シ唐銅琉球風炉、刷

毛目釜 浄中作 掻合セ丸敷板シキテ

独楽ツナギ風炉先屏風 即中齋書付

惺齋好好文欄

水指 高取 掛分 銘白サキ 惺齋箱

茶器 老松写割蓋茶器 先代宗哲作

茶碗 弘入作 赤 惺齋筆松の絵 同箱

替 玄琢焼 梅桐の絵 豊公北野大

茶の湯三百五十年記念 志野ノ土

ヲ以テ 近衛文磨箱

替 仁清写水車の絵 即中齋箱 永

楽造

茶杓 碌々齋作 銘常夏 共筒

建水 惺齋好黄瀬戸棒の先 共箱

蓋置 慶入作 青輪 八十四歳作

銘々盆ニ

菓子 卯の花がき 嘯月製

茶 珠の白 柳桜園詰

まごころを車にのせて50年、  
地域と共にこれからも。

京都日産自動車株式会社  
本社 / 京都市南区国道1号線十条上る

フリーダイヤル 0120-11-5523  
お客様相談室まごころライン



【取扱車種】  
フルーバード  
パルサー  
セフィーロ  
マキシマ  
フェアレディZ  
Jフェリー  
テラノ  
パネットセレナ 他



百二十年の歴史を胸に……

# 柳の木の子正親

「街の香り」

柳の木の子正親とは良い名と思う。沿革史にはこう書いてありました。

「正とは心正しくして言行偽りなきをいい、親とは人に親しみて敬愛深きを謂うなり」とあります。

余計なことかも知れないが、次の様なことが昔の人に語られています。

明治二年、正親は十番組小学校として、隣の聚楽は十五番組小学校として発足したが、明治八年小学校に名称をつけることとなり、十五番組はいち早く小学校に聚楽と言う名を府に申請して許可を受けたので、十番校が聚楽第校にしようとして張切っていた世話役達は非常に残念に思ったらしい。負けず嫌いの人もいたらしく聚楽第起工当時は正親町天皇だったので豊臣秀吉よりも上だということで、全く同じでも恐れ多いから、町の一字をけづり正親という名を選び、明治九年に申請したと言うことです。

しかし正親と言う町名が全然なかった訳ではない。平安京が衰えてから禁

裏は烏丸の東に移ったのですが、この禁裏の西に一条二町、正親町二町、烏町等があつて禁裏のお役に立っていたことが伝わっております。

この正親学区は秀吉が聚楽第を天正十五年に築いた所ではあるが、民家の集落は文祿四年豊臣秀次が殺され、聚楽第がつぶされてから起こったもので町造りは新しいのです。

また、学区には四ヶ所の由緒ある寺院があります。第一は浄土宗の智恵光院で永仁元年鷹司兼平が建てた。第二は日蓮宗の愛染寺で天台宗愛染院として天正年間に現在の千本中立売西亀屋町に建立されています。恵照山浄福寺は、享保十六年焼失したが享保十八年に再建されている。第四は勝福寺、中立売松屋町西入で古くは一条房清水庵と称し、親鸞聖人が嘉禎二年、関東より帰洛されたとき、一時当寺に庵を結ばれ民衆教化の道場でありました。この寺は真田幸村一族の寄進により出来たものとし、良如上人より勝福寺の号を賜っております。寺宝としては親鸞

聖人木像（御自作と云う）一躯、実如上人御消息一通、蓮如上人、実如上人筆尊号二幅、狩野常信、伊藤若冲の画等を所蔵されております。

このような学区ですが、われわれが忘れることが出来ないことがあります。昭和二十年六月二十六日、京都に突然空襲警報が発令されてまもなくB29が爆弾を落としましたが、私の住んでる亀木町と山里町に二百五十キロの爆弾で二軒程吹き飛ばされ、山里町の秋田さんの家に命中し一家六人即死した悲しい思い出が残っております。しかし今は昔を忘れた様に立派に復興して力強く過ごされております。

八月の地藏盆は昔からの伝統の祭りを受けついで実施されて、これが町づくりとふれあいの心を作り出しているのだと感じられます。本当に柳の木の子正親学区は百二十年の歴史を胸に抱きながら前進しております。（城戸信一）



永年の信用と実績  
真心のこもったご奉仕

葬祭センター 京都

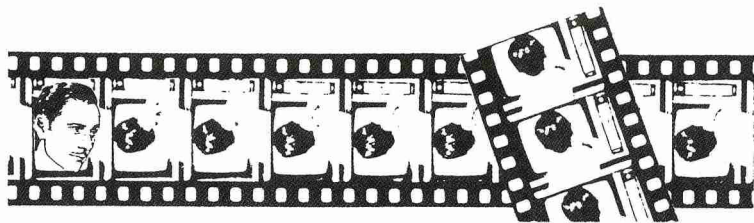
# 公益社

本社  
烏丸三条下ル ☎(075)221-4116(代)

北公益社/京都市北区紫明通堀川東入  
中公益社/京都市東山区五条通東大路東入  
南公益社/宇治市横島町(文教短大前)  
滋賀公益社/大津市朝日が丘一丁目

☎075(431)7121(代)  
☎075(551)0042(代)  
☎0774(20)0042(代)  
☎0775(23)0042(代)





# 思い出の西陣映画館

その二



## 三太郎席

(上京区中立売通千本東入南側)

中立売通の寿司屋の裏にあった小さな寄席で、終戦後もあったが、現在、ガレージ。

北野劇場―北野東宝―北野東映

(上京区千本通中立売下ル東側)

昭和二十八年開場、敷地二百坪、最初定員四百名、改装して七百名となる。

昭和三十三年北野東宝と改め東宝切封館、その後北野東映と変わり、第二東映映画上映、昭和四十五年五月末日閉館、現在九階建マンション。

大栄座―西陣劇場

(千本通出水下ル一筋目東入南側)

はじめ大栄座(大正五年十一月、今出川千本東入に新築開場)大正九年に千本出水に移転、昭和十二年西陣劇場と改め映画上映、昭和十五年の入場料は三十銭(税金二銭)昼夜二回興行。三日目ごと外題替り、昭和四十三年二月閉館、現在ガレージ。

千船座―千船映画劇場―西陣東宝映画劇場―千船劇場

(上京区千本通鞍馬口下ル東側)

ここはもと十二坊の一つ願明坊の跡、昭和初期、旅廻りの役者が芝居をやっていた。昭和二十二年頃、広島から流れてきた江味一座が十一年間熱演を続

## 三太郎席のはなし

『三太郎席』という趣味の素人芝居を大正時代と終戦後に開

いておられた山本三郎氏(故人)の娘さんが、中立売通千本

東入に住んでおられます。

今回は、その娘さんより名前は絶対に書かないでほしいと

懇願され、匿名で取材してきました。

父の芸名は、山本三太郎。三太郎席

を始めたのは大正時代で、この頃は華やかな時代でもありましたし、まだ映画のなかった時代で、浄瑠璃が主でした。この頃は、皆さんの娯楽として楽しんでいました。昭和三十二、三三年頃になり、こちらの千本でもということになり、再び三太郎席を始めることとなったのです。

小さな席で五十、六十人程入れた芝居小屋のようなものであったと思います。しかし、その後の一時はカフェや喫茶店にしたりアパートにしたり、いろいろしておりましたが、戦時中は疎開になり中断していたものです。

戦後になり記憶は、はっきりしません。先斗町や宮川町の歌舞練場で席を借りて、民生歌舞伎、京洛歌舞伎を

戦後になり記憶は、はっきりしません。先斗町や宮川町の歌舞練場で席を借りて、民生歌舞伎、京洛歌舞伎を

テレビ、ビデオ等の映像文化の勢いに押され、映画界の後退が叫ばれて久しい。西陣の発展と共に栄え、西陣の衰退と共にその灯を一つずつ消していった京都で、新京極について映画館、寄席の多かった西陣の興行街のうつりかわりに想いを馳せるのも一興かとも思われませぬ。史跡にはなりません、さしづめ史席と呼んだ方が良いのかも知れませぬ。





# ふれあい事業のお知らせ

## 上京区民ふれあいまつり

日 時 10月25日(日) 午前10時～午後2時30分  
雨天11月1日(日)に延期

場 所 上京中学校(新町通一条下る)

内 容 福祉コーナー・ふわふわコーナー・紙芝居コーナー・模擬店コーナー・三世代玉入れ・おたのしみ抽選会・写真コンクール・舞台コーナー・クイズ「ここはどこでしょう」・暮らしの相談あれこれなど、楽しいイベントがいっぱい。お年寄りも子供も、おとうさん・おかあさんも——みんな集まれ!

入場無料

お問い合わせは、上京区役所地域振興室へ

## お茶を知ろう ～～ふれあい文化大学～～

文化を通じ、人と人がふれあい、「わが町上京」を見つめなおしましょう。

	日 時	内 容	講 師	場 所
第1回目	11月9日(月) 午後1時30分～ 午後3時30分	講演「お茶の歴史」	表千家久田宗也宗匠	不審菴(表千家)事務所 3階 寺之内通小川東入
第2回目	11月16日(月) 午後1時30分～ 午後3時30分	講演「お茶とお菓子」	鈴木宗康先生 (和菓子研究家)	上京区役所2階会議室 今出川通新町東入
第3回目	12月21日(月) 午後1時30分～ 午後4時30分	家元拝見と呈茶 感想会	表千家	不審菴(表千家)事務所 3階 表千家家元

### 申込み受け

10月26日(月) 午前9時から

3回通しで来られる方、先着50名、上京区民に限ります。

上京区役所地域振興室窓口へ受講料2,000円を添えてお申込み下さい。一人1名分のみ受け付けます。

## 御所のまわりを歩こう～～ふれあい史蹟ウォーキング～～

京都の中心にあって史蹟・名勝に恵まれた「わが町上京」の日頃何気なく見過ごしている身近な史蹟を歩きながら訪ねましょう。

日 時 11月22日(日) 午前9時30分集合(雨天11月29日(日))

集合場所 1. 盧山寺 寺町通広小路上る 2. 護王神社 烏丸通下長者町角  
3. 下御霊神社 寺町通丸太町下る

この3カ所の史蹟に別れて集合し、説明を受けた後、他の2カ所の史蹟をめぐり、集合地点へ到着した方に記念品を差し上げます。全行程約4キロメートル。

参加定員 1カ所100名(計300名) 参加費無料

### 申込受付

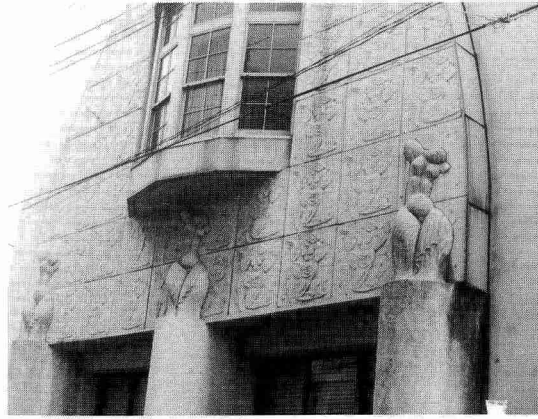
10月19日(月)より定員になり次第締切ります。

上京区役所地域振興室窓口または電話(441-0111)で受け付けます。

# 上京クイズ

§前回の正解は

NTT西陣営業所  
(西陣電話局)



知る人ぞ知る。知らない人にとつては上京区にもこんなものがあつたのかと、改めて認識してもらおうというのが、このクイズの趣旨です。

前回の答えは、正式には「NTT西陣営業所本館」、最近までは「西陣電話局」と呼ばれていた中立売油小路角にある建物で、正面外壁を飾る裸婦のレリーフと女性のトルソの部分です。この建物は二十八歳で早世した岩元

禄という通信省の建築技師が、死の前年の大正十年に完成させたもので、彼の唯一現存する作品です。東側は太い円柱によって庇が支えられています、その庇の裏にもレリーフを張り付けてあります。お通りがかりの時に、見上げてください。

彼は用途よりも芸術性を重視し、その個性的なデザインは、大正期の日本の近代主義建築の先駆者として名を残しています。

昭和六十年、京都市登録有形文化財として、その保存がはかられ、岩元禄の業績がたたえられています。

## 編集後記

▽「上京 史蹟と文化」の第三号が出来るようになりました。本号は前号からの連載記事に加えて、上京区民新能を特集いたしました。

▽「ここはどこでしょう？」のクイズには多くの正解をいただきました。そのハガキには、それぞれ励ましのお言葉をいただき、編集委員一同、感激しています。

▽秋の「ふれあい事業」の様子を特集した第四号は、来年三月に発行を予定しております。

## これはどこでしょう？

○正解者の中から抽選にて二十名の方に記念品をお送りします。

○締切 平成四年 十一月 十五日

○正解と住所・氏名・電話番号を記入の上

〒六〇二 京都市上京区今出川通室町西入 上京区役所地域振興室「上京・史蹟と文化」宛にハガキでお送り下さい。また本誌の読後感もお書き下さい。

夷川五色豆



豆 まめ 政 まさ

本店/〒604 京都市中京区夷川通堺町東 TEL.075(211)5211~3  
三条店/〒604 京都市中京区三条通河原町東 TEL.075(255)0390

イタリアが好き!  
イタリア料理専門店

レストラン

フクムラ

河原町店 中・六角河原町東入 255-5733(火・休)  
四条店 中・富小路四条上ル 255-2060(水・休)  
(株)イタシヨク(イタリアワイン・食品輸入元)(小売歓迎)  
北・紫野大徳寺門前町 491-0900

断ちきろう 身近な差別を 私から



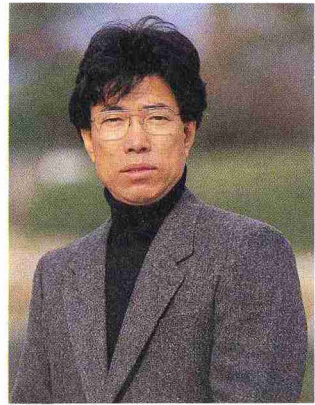
—日本の行事 五節句 世界に翔—



元宮内庁京都事務所長 石川 忠  
財団法人有職文化協会理事長

(五節供)

人日の節句	一月七日
上巳の節句	三月三日
端午の節句	五月五日
七夕の節句	七月七日
重陽の節句	九月九日



前京都国立博物館技官 切畑 健  
大手前女子大学文学部教授



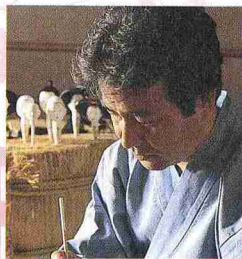
(御家紋付)

有職ひな人形



お子様の  
ご成長を願う。

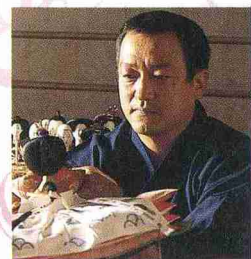
有職司



有職司 山本正明



六世 島津豊泉



有職司 井上 競

天保四年創業

**京都 島津**

〒600 京都・高島田東側 975-341 1581 大阪  
 〒110-0001 東京都千代田区千代田 2-1-1  
 制作工場 京都府京都市東山区船場 船場通 船場通 船場通  
 資料室 有職会・民俗学文化研究所・京文化協会